

安全データシート (SDS)

改定日: 2021年11月1日

1. 化学品及び会社情報

| | | | |
|--------|-----------------|-------------------|--------------------|
| 製品名 | アンチコラップ | | |
| 推奨用途 | 水溶性添加剤 | | |
| 使用上の制限 | 上記以外の用途 | | |
| 会社名 | 日本グリース株式会社 | | |
| 住所 | 横浜市鶴見区末広町1-12-4 | | |
| 担当部門 | 営業本部 | 電話番号 045-501-0781 | FAX番号 045-504-2213 |
| 緊急連絡先 | 技術研究所 | 電話番号 078-731-8147 | |
| 整理番号 | J424903200 | | |

2. 危険有害性の要約

| | |
|-------|---|
| GHS分類 | 急性毒性(経口): 区分4 皮膚腐食性・刺激性: 区分1B 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分1 皮膚感作性: 区分1 特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分2(腎臓) 水生環境有害性 短期(急性): 区分3 |
|-------|---|

GHSラベル要素
絵表示注意喚起語
危険有害性情報

| | |
|----|---|
| 危険 | H302: 飲み込むと有害 H314: 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷 H318: 重篤な眼の損傷 H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ H373: 長期にわたる、又は反復ばく露による腎臓、肝臓の障害のおそれ H402: 水生生物に有害 |
|----|---|

注意書き

【安全対策】

| |
|--------------------------------------|
| P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 |
| P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 |
| P264: 取扱後は手をよく洗うこと。 |
| P270: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 |
| P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 |
| P273: 環境への放出を避けること。 |
| P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 |

【応急措置】

| |
|---|
| P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 |
| P303+P361+P353: 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 |
| P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。 |
| P333+P313: 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。 |
| P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| P301+P312: 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。 |
| P301+P330+P331: 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 |
| P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 |
| P363: 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 |
| P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 |

【保管】

P405: 施錠して保管すること。

【廃棄】

P501: 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

※GHS分類から導かれる上記注意書きに記載がない場合でも、本SDS4~8章を参考にし安全対策/応急措置/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

国・地域情報

国内外の情報に関しては「14. 輸送上の注意」「15. 適用法令」を参照すること。

3. 組成及び成分情報

| | |
|------------------|---------------|
| 化学物質・混合物の区別 | 混合物 |
| 化学名又は一般名 | 水溶性添加剤 |
| 成分及び含有量 | 添加剤 100% |
| 化学特性(化学式) | 特定できない |
| 官報公示整理番号 | 企業秘密なので記載できない |
| CASナンバー | 企業秘密なので記載できない |
| 危険有害成分 | |
| 化学物質管理促進法(PRTR法) | 非該当 |
| 労働安全衛生法 | 非該当 |
| 毒物劇物取締法 | 対象物ではない |

4. 応急措置

| | |
|-----------------------|---|
| 吸入した場合 | <ol style="list-style-type: none"> 1 直ちに新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 2 呼吸困難な場合には人工呼吸等を行う。 3 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 |
| 皮膚に付着した場合 | <ol style="list-style-type: none"> 1 汚染した衣服を速やかに脱ぎ、直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。 2 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 3 汚染された衣服を再使用する前に洗濯すること。 |
| 眼に入った場合 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 直ちに清浄な水で15分以上洗眼すること。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ・ 洗眼を始めるのが遅れると障害を増大させるおそれがある。 ・ 眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。 |
| 飲み込んだ場合 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 直ちに水で洗浄うがいし、速やかに医師の手当てを受ける。 ・ 意識不明の場合には、口からなにも与えない。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 | <ul style="list-style-type: none"> ・ データなし |
| 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。 |
| 医師に対する特別注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・ データなし |

5. 火災時の措置

| | |
|-----------------------|---|
| 適切な消火剤 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水、二酸化炭素、乾燥砂、粉末消火薬剤、泡沫消火薬剤。 |
| 使ってはならない消火剤 | <ul style="list-style-type: none"> ・ データなし |
| 火災時の特有の有害危険性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災時に刺激性、腐食性、もしくは有毒なガスを発生するおそれがある。 ・ 加熱や燃焼により分解し、塩化水素、臭素、臭化水素、窒素酸化物、硫酸酸化物などの有毒で腐食性のヒュームを生じる。 |
| 特有の消火方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 2 消火活動は、可能な限り風上から行う。 3 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 4 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用防護服、手袋、ゴム長靴を着用すること。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|--|
| 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者以外の立ち入りを禁止する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 ・ 本剤は腐食性である。 ・ 作業者は適切な保護具(「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 ・ 全ての着火源を取り除く。 |
| 環境に対する注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境中に放出してはならない。 |
| 封じ込め及び浄化の方法、及び機材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 空容器に回収する。残分はオガクズ、ウエス等に吸着させ回収、廃棄処分する。危険でなければ漏れを止める。 |
| 二次災害の防止策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 ・ 漏出物の上をむやみに歩かない。 ・ 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- 1 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 2 出来るだけ換気の良い場所で作業する。
- 3 指定する薬剤以外とは混合しない。

安全取扱い注意事項

- ・ 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 1 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 - 2 眼に入れないこと。
 - 3 皮膚との接触を避けること。
 - 4 飲み込まないこと。
 - 5 取扱いの際には、飲食、又は喫煙をしないこと。
 - 6 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。薬剤が付着した場合は、必ず作業衣を着替え洗濯する。
 - 7 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

接触回避

衛生対策

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- 1 雨水を避け、風通しの良い冷暗所に密栓して保管する。
- 2 盗難、紛失、落下等の事故防止に注意する。
- 3 本剤は、購入後6ヶ月以内に使用する。

安全な容器包装材料

- ・ ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・ 屋内作業の場合には、出来るだけ密閉された装置、又は局所排気装置を使用する。
- ・ 取扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示する。

管理濃度

許容濃度

- ・ 設定されていない。
- ・ 日本産業衛生学会(2007年度版) 設定されていない。
- ・ ACGIH(2007年度版) 設定されていない。

保護具

呼吸器用の保護具

- ・ 有機ガス用保護マスク

手の保護具

- ・ 耐溶剤(耐油)性手袋

眼、顔面の保護具

- ・ 保護メガネまたは安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

- ・ 状況に応じ、長靴、前掛け、保護面、ビニール製合羽

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

無色～黄色

臭い

特異臭

pH

約4.4 (1%水溶液)(代表値)

融点／凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界

データなし

／可燃限界

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び／又は相対密度

約1.19(25℃)(代表値)

溶解度

水溶性(水にあらゆる比率で溶解する)

n-オクタノール／水分配係数

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

動粘性率

データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---|
| 反応性 | ・ データなし |
| 化学的安定性 | ・ 通常の室温条件下では安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | ・ 加熱や燃焼により分解し、塩化水素、臭素、臭化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物などの有毒で腐食性のヒュームを生じる。ある種のアミン、アルカリ性化合物と反応する。 |
| 避けるべき条件 | ・ 加熱や燃焼 |
| 混触危険物質 | ・ 以下との接触を避けること：酸化剤、アミン、還元剤、メルカプタン、アルカリ性化合物 |
| 危険有害な分解生成物 | ・ 塩化水素、臭素、臭化水素、窒素酸化物、硫黄酸化物などの有毒で腐食性のヒューム |

11. 有害性情報

| | |
|----------------------|--|
| 急性毒性 | ・ 経口 マウス LD ₅₀ 値 600 mg/kg [区分4] |
| 皮膚腐食性／刺激性 | ・ JIS Z 7252:2019 附属書B.2.3混合物の分類基準(加成方式)により区分1Bとした。 重篤な皮膚の損傷 |
| 眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性 | ・ JIS Z 7252:2019 附属書B.3.3混合物の分類基準(加成方式)により区分1とした。 重篤な眼の損傷 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作 性 | ・ 【呼吸感作性】データなし 【皮膚感作性】JIS Z 7252:2019 附属書 B.4.3.4 により区分1とした。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ |
| 生殖細胞変異原性 | ・ データなし |
| 発がん性 | ・ データなし |
| 生殖毒性 | ・ データなし |
| 特定標的臓器(単回ばく露) | ・ データなし |
| 特定標的臓器(反復ばく露) | ・ JIS Z 7252:2019 附属書 B.9.3 混合物の分類基準(表 B.29)により区分 2 とした。 長期又は反復ばく露による肝臓、腎臓の障害のおそれ |
| 誤えん有害性 | ・ データなし |

12. 環境影響情報

| | |
|--------------------|---|
| 生態毒性 | |
| 水生環境有害性 短期(急 性) | ・ 魚毒性 ヒメダカ 48時間 LC ₅₀ 11.6 mg/L [区分3] 魚類に対し毒性があるので、高濃度の薬剤希釈液や洗浄廃液が海洋、河川、養殖池、下水道、地中に流失しないよう十分注意する。 |
| 残留性・分解性 COD(Mn) | ・ 530ppm (アンチコラップ 1000ppm) |
| 生態蓄積性 | ・ データなし |
| 土壤中の移動性 | ・ データなし |
| オゾン層への有害性 | ・ データなし |

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|--|
| 残余廃棄物 | ・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 ・ 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。 |
| 汚染容器及び包装 | ・ 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 ・ 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 国際規制 | |
| 陸上規制情報 | ・ ADR/RIDの規制に従う。 |
| 海上規制情報 | ・ IMOの規制に従う。 |
| 航空規制情報 | ・ ICAO/IATAの規制に従う。 |
| 国連番号 | ・ UN1760 |
| 国連分類 | ・ 腐食性物質(クラス8)／その他の腐食性物質(液体)／容器等級 II |
| 国内規制 | |
| 陸上規制情報 | ・ 適用法令に従い輸送する。 |
| 海上規制情報 | ・ 船舶安全法の規制に従う。 |
| 航空規制情報 | ・ 航空法の規制に従う。 |

特別の安全対策

- ・ 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
- ・ 重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号 ・ 154

15. 適用法令

- | | |
|------------------------|-------|
| 消防法 | ・ 非該当 |
| 労働安全衛生法 | ・ 非該当 |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) | ・ 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | ・ 非該当 |

16. その他の情報

※本書類中の%表示については、特に指定のない限り「質量%」を表す。

【参考文献】

原料SDS

安全データシート(SDS)は、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱事業者提供されるものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って本データシートそのものは安全の保証書ではありません。また本データシートはJIS Z7253:2019に沿って、潤滑油協会にて作成したSDSモデル及び改定日時点で弊社のサプライチェーンを通じ上流メーカーから得られた情報を基に作成したものであり、その内容やデータについて弊社製品そのものを反映しているわけではなく、すべてを保証するものでもありません。各種法令改正や製品情報の改定により今後も内容が変更されますので、販売・流通事業者は、取扱事業者に対し、常に最新の安全データシートを提供するようお願いします。